どこかで咲く花

シー様（借りの返せない男）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
どこかで咲く花

【Ｎコード】
Ｎ２０００Ｐ

【作者名】
シー様（借りの返せない男）

【あらすじ】
恋愛らしいものらしい

私は、今日２０成人を迎えた。もう親の言うことなんて聞かなくて良い。

私は、口うるさい親元を離れて、都会で一人で暮すことにした。
悩みが、あった訳じゃない。ただ、一人立ちがしたかった。
今の世の中、女でも仕事ができるのは当たり前だ。
私も当然、それくらいの女になることは、目標にしていた。

私は、既に就職が決まっており、私の描いた生活が始まった。
毎日が充実していて、楽しかった。
そんなある日、友達と一緒に、買い物をしていたら、彼と出会った。
彼は、ストリートミュージシャンだった。
お客は一人も居ないけど、堂々と熱唱する彼の歌、その姿に、私は一目ぼれした。
私は、その彼の元に、毎日のように通いつめた。
ある日、その彼から、声を掛けられた・・・

「君？もしかして俺に惚れてんの？」
彼の高圧的な態度、上から目線・・・がっちりした体・・・、私はシビレタ。。
つい、言葉が止まってしまった。。

彼は、私を食事に誘ってくれた。
私は、躊躇いながらも、流されるように彼についていってしまった。

食事の最中彼は、自分の夢を私に語っていた。。
私には、夢とかなかったら、彼の気持ちは良く判らない。

けど、嬉しそうな彼の顔を見たら、応援したい気持ちになっていた。
私たちは、男女が自然に求めうように、付き合っていった。
付き合い始めて3ヶ月の頃、彼から急に連絡が取れなくなった・・・
私は彼の家へと向かった。
彼は、落ち込んでいるようだった。
訳を聞くと、
自分の曲を売り込んだ会社の人に、馬鹿にさたのだそうだ。
私は、こんなに悲しそうな彼の姿を見たことがなかったから、心配だった。
慰めようとしたけど、彼は、私の言葉に耳を傾けようとしなかった。
それは、そうだ・・・
彼は、あの曲に、物凄い労力をかけていたから、ショックはおおきいのだ。
私は、仕方ないことだと思いつつ、彼のそばに居た。
気が付くと私は彼を支えていた・・・
彼の為に、ご飯を作り。掃除をしていた。
ある日のこと、掃除をしていたら、彼の部屋から、白い粉の様なものを見つけた。
私が何かと訪ねると、急にあわてだした彼は・・・
「部屋から出て行けーーーーーーーーーー！！！」
と、彼は大声で怒鳴り散らすのでした。
私はショックだった。。

訳が判らなかった。
友達にそのことを相談すると、「覚せい剤」だと教えてくれた。
覚せい剤・・・聞いたことがあったが、詳しくは判らない。。
でも、とにかく良くないことは判っていた。

でも、まさか、彼が覚せい剤に手を出すはずがないと思っていた。
私は、彼に問い詰めたら、彼は、開き直るように、白状した。
私は、なんとか説得して、彼は、もうやらないことを約束した。

私は、その後も彼と一緒に暮した。
落ち着ける日はなかった。
いつ、彼が覚せい剤に手を出すのか判らなかったから・・・

彼は、その後も熱心に曲作りに励んでいた。
だけど、その曲も世間では認めれなかった。。。

彼は、壊れた。
覚せい剤の副作用もあるのだろうが、とても苦しそうだった。・・・
彼は、覚せい剤を取り出して使おうとした。

危ない！！

私は、彼を無理やりにでも止めた。
けど、女の力では敵わない。彼は覚せい剤を使ってしまった。

彼は、落ち着きを取り戻した。

その後、感情的になったことを謝罪して私を抱きしめた・・
彼は、次こそ止めることを覚悟をして、隠していた覚せい剤を全て

私に預けた・・・
私は、彼を信用してしまった。
今思えば、彼を助けるなら、彼を失う覚悟が私に必要だったのだ。
私は、それに気付いていたかもしれない。
けど、彼を一人にしたくなかった。

彼は、その後も、作曲を続けて認められず、希望と絶望を繰り返した。
彼は、苦しみながらも、なんとか耐えていた。
だけど見るに耐えない・・・可哀想でならない・・・

もう止めて!!諦めて、楽になろう!!
これ以上、自分を追い詰めちゃ駄目だよ!!
私は貴方の曲が好き。世界で一番大好き。
それで十分だよ・・・

私には判らなかった。
彼が成功者に成りたい理由を理解できなかった。
プライド?そんな言葉じゃ納得できない。
彼を理解したい。助けたい・・・
でも出来ない。。
そんな自分が悔しくて、切なくて、泣いていた・・・

私には判らなかった。
その後どうして、彼が急に優しくなったのか・・
けど、彼は、今、私を抱きしめている。
まるで、子供のように、母にすがりつくように・・・

私には判らなかった。
彼は自分の夢は捨てなかったけど、自分を追い込まなくなった。

そして笑うようにもなった。
彼の笑顔を久しぶりに見た気がした。
私たちは幸せだった・・・永遠にこの時間が続けばいいと願っていた。

けれど、幸せな時間は長くは、続かなかった。

恐れていたことが起きてしまった。

私たちは、警察に捕まり、刑務所に入れられた・・・

私たちは、離れ離れになって、繋がりはなくなった。。

彼が恋しい。会いたい。でも無理なんだ。
涙が止まらない・・・
永遠に終わらないような地獄が続いた・・。

　そんなある日、私は、妊娠していることに気が付いた。

彼の子供・・・私の子供・・・
嬉しかった。彼との繋がりを発見した気分だった。
だけど・・・ごめんなさい。
私は、貴方を育てることが出来ない・・・
親として胸を張れる存在になれない。
私たちの罪をどうか許して。。

私は、貴方を生んだ後に、
貴方を私の母・・貴方のお婆ちゃんに、預けることになった。。

今日が最後の別れの日だ・・・貴方に、もう二度と私には会えない。
悔しい！嫌だ！自分が愚かしい！！手放したくない・・・

でも、それが、この子為になるなら仕方が無い。
親が犯罪者なんて、子供には、過酷すぎるもの・・・。

でも・・せめて、名前をつけさせて。
親の資格はないけど、貴方は、紛れもなく、私にとって大事な存在。
だから、ごめんなさい。
私の勝手を許してね・・・・

私は、貴方に、名前を付けた。

その意味は、

都に咲き乱れるように、美しく花開け・・・

あの人の夢と私の夢を貴方に刻みいれた。
親として恥ずかしい。自分のエゴを押し付けたみたいで・・・

けれど、あの人が追いかけた夢は、間違っていない。
苦しんだけど間違いじゃない。

もし、貴方が、この先の人生で、夢を見つけて追いかけるなら応援する。
彼の様に壊れていかないように・・・祈り続ける・・・
そして、都に咲き乱れるように、美しく花開いてください。

私は、貴方の幸せだけを願い続けます。
それしか私にはできないから・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2000p/

どこかで咲く花

2010年12月2日03時21分発行